



2026年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2026年2月13日

上場会社名 株式会社中村超硬 上場取引所 東
コード番号 6166 URL <https://www.nakamura-gp.co.jp/>
代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 井上 誠
問合せ先責任者 (役職名) 取締役管理本部長 (氏名) 田植 啓之 (TEL) 072-274-0007
配当支払開始予定日 —
決算補足説明資料作成の有無 : 有
決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2026年3月期第3四半期の連結業績(2025年4月1日～2025年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2026年3月期第3四半期	2,173	2.7	△46	—	△0	—	182	—
2025年3月期第3四半期	2,116	15.2	1	—	△9	—	△13	—

(注) 包括利益 2026年3月期第3四半期 186百万円(—%) 2025年3月期第3四半期 △10百万円(—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2026年3月期第3四半期	16.59	—
2025年3月期第3四半期	△1.23	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2026年3月期第3四半期	5,078	1,004	19.6
2025年3月期	5,355	819	15.1

(参考) 自己資本 2026年3月期第3四半期 996百万円 2025年3月期 810百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2025年3月期	—	0.00	—	0.00	0.00
2026年3月期	—	0.00	—		
2026年3月期(予想)				0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2026年3月期の連結業績予想(2025年4月1日～2026年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	円 銭
通期	3,000	13.6	35	350.1	55	—	10	0.91

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における連結範囲の重要な変更 : 無
新規 ー社 (社名) ー 、除外 ー社 (社名) ー

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)	2026年3月期3Q	11,020,900株	2025年3月期	11,020,900株
② 期末自己株式数	2026年3月期3Q	1株	2025年3月期	1株
③ 期中平均株式数 (四半期累計)	2026年3月期3Q	11,020,899株	2025年3月期3Q	11,020,899株

※ 添付される四半期連結財務諸表に対する公認会計士又は : 無
監査法人によるレビュー

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「1. 経営成績等の概況 (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況	2
(1) 当四半期連結累計期間の経営成績の概況	2
(2) 当四半期連結累計期間の財政状態の概況	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(セグメント情報等の注記)	8
(キャッシュ・フロー計算書に関する注記)	9
3. その他	10
継続企業の前提に関する重要事象等	10

1. 経営成績等の概況

(1) 当四半期連結累計期間の経営成績の概況

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、米国の通商政策による影響が一部にみられるものの、緩やかな回復傾向となりましたが、日米の政策金利の動向による不安定な為替相場や、台湾情勢を巡る日中関係の緊張等によって景気の下振れが懸念される状況にあります。世界経済においては、米国の政策変動による景気の先行き不透明感が高まっているとともに、ロシア・ウクライナ紛争や中東地域における緊張が長期化しているとともに、中国経済回復の遅れや原材料・エネルギーコストの高止まりの継続等、わが国経済を取り巻く世界情勢は予断を許さない状況が続いております。

このような状況下、当社グループは、特殊精密機器事業においては米国向け自動車関税の引き上げや中国経済停滞の影響を受け、電子部品業界向け、ベアリング業界向けや自動車部品メーカー向けの販売が共に低調に推移しました。化学繊維用紡糸ノズル事業においては、炭素繊維用ノズル、不織布用ノズルが堅調に推移しましたが、D-Nex t 事業においては、半導体・パワー半導体の市況低迷により、ダイヤモンドワイヤ販売が低調に推移しました。

これらの結果、第3四半期連結累計期間における売上高は2,173百万円（前年同期比2.7%増）、営業損失は46百万円（前年同期は1百万円の営業利益）、経常損失は0百万円（前年同期は9百万円の経常損失）、親会社株主に帰属する四半期純利益は江蘇三超社との国際仲裁における仲裁判断（中間判断）に基づき、受領済契約対価の収益未計上分及び江蘇三超社に支払いが命じられた輸送費等を特別利益に計上したことにより182百万円（前年同期は13百万円の親会社株主に帰属する四半期純損失）となりました。

セグメントの業績は次のとおりであります。

① 特殊精密機器事業

特殊精密機器事業については、米国による自動車関税の引き上げや中国経済停滞の影響を受け、電子部品業界向けのコレット等の精密部品の販売や、ベアリング業界向けや商社経由での自動車部品メーカー向けの耐摩耗工具分野の販売が低調に推移しました。なお、本格的な量産販売が開始された新規アイテムである新素材で製作した実装機用ノズルの売上は順調に増加したことに加え、新規分野である半導体製造分野において新規顧客との取引を開始いたしました。

これらの結果、売上高は546百万円（前年同期比2.2%増）、セグメント損失は28百万円（前年同期は12百万円のセグメント利益）となりました。

② 化学繊維用紡糸ノズル事業

化学繊維用紡糸ノズル事業については、航空機向けを中心とした炭素繊維用ノズル及び不織布関連ノズルの販売が堅調に推移いたしました。またこれまで低迷していた、たばこ用フィルター向けノズルの受注・販売が回復基調に転じたことに加え、計画外の洗浄装置の販売もあり、売上・利益ともに堅調に推移いたしました。

これらの結果、売上高は1,452百万円（前年同期比4.2%増）、セグメント利益は115百万円（前年同期比14.1%減）となりました。

③ D-Nex t 事業

D-Nex t 事業については、海外顧客開拓は順調に進捗しているものの、中間期に引き続き当第3四半期連結累計期間においても半導体・パワー半導体市況低迷の影響により、国内大手顧客へのダイヤモンドワイヤの販売が低調に推移いたしました。

これらの結果、売上高は165百万円（前年同期比7.7%減）、セグメント損失は86百万円（前年同期は87百万円のセグメント損失）となりました。

④ マテリアルサイエンス事業

新規事業として取り組んでいるナノサイズゼオライトについては、歯みがき粉用途等において正式採用が決定いたしました。また、量産期待値の高い電子部品封止剤やガス吸着用途分野においては顧客やエンドユーザーにおける正式採用に向けた評価が継続しております。また、引き合いが増加している触媒用途、分離膜用途や金属イオン吸着用途等の新規用途分野向けへのサンプル提供を継続いたしました。

これらの結果、売上高は8百万円（前年同期比2.4%増）、セグメント損失は61百万円（前年同期は75百万円のセグメント損失）となりました。

(2) 当四半期連結累計期間の財政状態の概況

① 資産

受取手形及び売掛金が83百万円増加、現金及び預金が61百万円増加したものの、仕掛品が305百万円減少、機械装置及び運搬具が104百万円減少したこと等により、総資産は前連結会計年度末に比べ276百万円減少し5,078百万円となりました。

② 負債

前受金が186百万円減少、1年内返済予定の長期借入金が137百万円減少、契約負債が61百万円減少、電子記録債務が43百万円減少したこと等により、負債は前連結会計年度末に比べ461百万円減少し4,073百万円となりました。

③ 純資産

利益剰余金が182百万円増加したこと等により、純資産は前連結会計年度末に比べ185百万円増加し1,004百万円となりました。

この結果、自己資本比率は19.6%（前連結会計年度末は15.1%）となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2026年3月期通期の連結業績予想につきましては、2025年5月12日付決算短信において公表いたしました連結業績予想から変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2025年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2025年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,308,830	1,370,241
受取手形及び売掛金	264,375	347,725
電子記録債権	55,494	43,095
商品及び製品	19,819	77,051
仕掛品	613,775	307,875
原材料及び貯蔵品	137,147	146,095
その他	59,275	44,768
流動資産合計	2,458,717	2,336,852
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	945,615	903,803
機械装置及び運搬具（純額）	1,252,122	1,147,950
土地	614,882	614,882
その他（純額）	45,634	41,316
有形固定資産合計	2,858,254	2,707,953
無形固定資産	8,674	5,051
投資その他の資産		
投資その他の資産	63,387	62,740
貸倒引当金	△33,923	△33,923
投資その他の資産合計	29,463	28,816
固定資産合計	2,896,393	2,741,821
資産合計	5,355,110	5,078,674

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2025年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2025年12月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	66,576	66,473
電子記録債務	43,344	-
前受金	186,666	-
契約負債	252,283	191,152
短期借入金	2,040,000	2,040,000
1年内返済予定の長期借入金	512,503	375,009
リース債務	21,446	21,291
未払法人税等	20,571	19,348
賞与引当金	8,616	18,097
受注損失引当金	25,647	11,500
その他	114,331	150,322
流動負債合計	3,291,986	2,893,196
固定負債		
長期借入金	279,186	241,692
リース債務	70,380	73,178
退職給付に係る負債	225,602	220,368
資産除去債務	50,779	51,323
その他	617,411	594,101
固定負債合計	1,243,361	1,180,664
負債合計	4,535,347	4,073,860
純資産の部		
株主資本		
資本金	349,042	349,042
資本剰余金	299,042	299,042
利益剰余金	182,569	365,457
自己株式	△0	△0
株主資本合計	830,654	1,013,542
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△678	△643
繰延ヘッジ損益	△34	△1,182
為替換算調整勘定	△19,759	△15,466
その他の包括利益累計額合計	△20,472	△17,293
新株予約権	9,582	8,564
非支配株主持分	-	-
純資産合計	819,763	1,004,813
負債純資産合計	5,355,110	5,078,674

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年12月31日)
売上高	2,116,675	2,173,655
売上原価	1,587,031	1,635,504
売上総利益	529,644	538,151
販売費及び一般管理費	528,533	584,390
営業利益又は営業損失(△)	1,110	△46,238
営業外収益		
受取利息	149	733
受取配当金	48	60
助成金収入	21	21
為替差益	1,353	4,782
補助金収入	12,920	1,000
原材料売却益	-	69,063
その他	7,325	6,771
営業外収益合計	21,816	82,431
営業外費用		
支払利息	29,843	34,003
その他	2,625	2,506
営業外費用合計	32,468	36,510
経常損失(△)	△9,540	△317
特別利益		
固定資産売却益	-	207,097
新株予約権戻入益	2,713	1,017
特別利益合計	2,713	208,115
特別損失		
固定資産除却損	0	25
減損損失	8,313	20,361
訴訟関連費用	122	8,188
特別損失合計	8,436	28,575
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	△15,264	179,221
法人税、住民税及び事業税	12,907	19,487
法人税等調整額	△14,661	△23,154
法人税等合計	△1,754	△3,666
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△13,510	182,888
非支配株主に帰属する四半期純利益	-	-
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△13,510	182,888

四半期連結包括利益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年12月31日)
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△13,510	182,888
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△56	34
繰延ヘッジ損益	1,060	△1,148
為替換算調整勘定	1,779	4,292
その他の包括利益合計	2,783	3,179
四半期包括利益	△10,726	186,067
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△10,726	186,067
非支配株主に係る四半期包括利益	-	-

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等の注記)

【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自 2024年4月1日 至 2024年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	特殊精密 機器事業	化学繊維用 紡糸ノズル 事業	D-N e x t 事業	マテリアル サイエンス 事業	計	調整額 (注) 1 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額
売上高							
外部顧客への売上高	535,325	1,393,815	179,394	8,140	2,116,675	—	2,116,675
セグメント間の内部 売上高又は振替高	5,670	—	—	—	5,670	△5,670	—
計	540,995	1,393,815	179,394	8,140	2,122,345	△5,670	2,116,675
セグメント利益 又は損失(△)	12,894	134,910	△87,859	△75,770	△15,824	16,935	1,110

(注) 1 セグメント利益又は損失の調整額は、セグメント間の取引の消去によるものであり、これは主としてグループ間の売上取引及び業務委託取引の消去によるものです。

2 調整額の項目に含めた配賦不能営業費用はありません。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する事項

(固定資産に係る重要な減損損失)

(単位:千円)

	特殊精密 機器事業	化学繊維用 紡糸ノズル 事業	D-N e x t 事業	マテリアル サイエンス 事業	計	調整額 (注) 1	合計額
減損損失	—	—	6,164	393	6,558	1,755	8,313

(注) 1 調整額の金額は、すべて共用資産に係る金額であります。

当第3四半期連結累計期間(自 2025年4月1日 至 2025年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位: 千円)

	特殊精密 機器事業	化学繊維用 紡糸ノズル 事業	D-N e x t 事業	マテリアル サイエンス 事業	計	調整額 (注) 1 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額
売上高							
外部顧客への売上高	546,994	1,452,726	165,596	8,338	2,173,655	—	2,173,655
セグメント間の内部 売上高又は振替高	3,946	1,941	—	—	5,887	△5,887	—
計	550,940	1,454,667	165,596	8,338	2,179,543	△5,887	2,173,655
セグメント利益 又は損失(△)	△28,813	115,876	△86,835	△61,986	△61,758	15,520	△46,238

(注) 1 セグメント利益又は損失の調整額は、セグメント間の取引の消去によるものであり、これは主としてグループ間の売上取引及び業務委託取引の消去によるものです。

2 調整額の項目に含めた配賦不能営業費用はありません。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する事項

(固定資産に係る重要な減損損失)

(単位: 千円)

	特殊精密 機器事業	化学繊維用 紡糸ノズル 事業	D-N e x t 事業	マテリアル サイエンス 事業	計	調整額	合計額
減損損失	20,361	—	—	—	20,361	—	20,361

(キャッシュ・フロー計算書に関する注記)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費(無形固定資産に係る償却費を含む。)は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年12月31日)
減価償却費	166,470千円	162,786千円

3. その他

継続企業の前提に関する重要事象等

金融機関との間で締結したシンジケートローン契約は2026年3月までとなっており、以後の契約について協議中であるため継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象または状況が存在しております。

しかしながら、金融機関とは良好な関係を築けており、また当第3四半期連結累計期間においては、これまで実施した新規顧客開拓や販売拡大施策の成果は表れており、資金面における当面の不安は解消されていることから、継続企業の前提に関する重要な不確実性は認められないものと判断しております。

なお、当社グループとしては、当該事象または状況を解消すべく、既存事業の収益力強化を図るとともに、新規事業として取り組んでいるナノサイズゼロライトの量産立ち上げを進めてまいります。また金融機関に対し、当社グループの事業計画を十分にご理解いただき、あらためて長期的な借入契約の締結に向けた取り組みを進めてまいります。